
「第2回 知の創成と検証に関する シンポジウム」報告

千葉 正喜

「第2回 知の創成と検証に関するシンポジウム」は「集合知としての社会情報学：そのアイデンティティ」を主題として2011年9月7日に札幌学院大学社会連携センターで開催されました。このシンポジウムは、科学研究費補助金基盤研究(B)、研究題目「学際的学問分野のBOK策定を事例とした知の創成とその整合性検証支援システムの研究・開発」研究代表者：増永良文(青山学院大学)の研究計画、および社会情報学部の「国内の大学との教育研究交流」事業の一環として位置付けられて行われることになったもので、その第1回目が「第20回社会と情報に関するシンポジウム」としても位置付けられて開催されました。今回はその継続としての開催です。

当日のプログラムは次のとおりで、成功裏に開催できました。

森田 彦：開会あいさつ

伊藤 守：「知の創生としての社会情報学」

高田 洋：「社会情報学の展開と教育」

石田博之：「社会情報学への時代の要請と教育の課題」

高橋 徹：「集合知創成における編集合戦について」

矢吹太郎：「集合知創成における編集競争とその解決について」

増永良文：閉会あいさつ

本紀要の以下の記事は、このシンポジウムの貴重な成果を記録し公表すべく、当日のご挨拶および各報告者のご講演内容をあらためて論文・報告としてご執筆いただいたものです。執筆者の方々には、あらためて感謝申し上げます。